

14日の青森市長選で、自民、公明両党が推薦する前副知事の蝦名武氏（67）が現職の鹿内博氏（65）に大差で敗れたことで、自民党内で夏の参院選への影響を懸念する声が出始めた。党青森市支部は週内にも総会を開いて敗因を分析する予定だが、蝦名氏擁立をめぐる党の結束が乱れた現実は重く、尾を引きそうだ。【酒造唯、宮城裕也】

「参院選に影響があってはならない。マイナスをゼロに、ゼロをプラスにしていかなければならない」

14日夜の蝦名氏の選挙事務所。陣営の選対本部長の津島淳衆院議員が自分に言い聞かせるように記者団との受け答えをしていた。

自民県連は昨年7月、県議の滝沢求氏（54）を参院選青森選挙区の公認候補に決定。同じ八戸市を地盤とする大島理森衆院議員らと選挙準備を進めている。昨年末の衆院選で自民が県内4選挙区で他の候補の比例復活すら許さない圧勝をしたことや、現時点で青森選挙区に6人が乱立する見通しなことから、自民党内でも夏の参院選に関しては楽観ムードが漂っていた。

ただ、過去3回の国政選挙の比例代表での自民票は微減傾向だ。09年衆院選は投票率が高く23万1934票を獲得したが、10年参院選は19万8915票、12年衆院選は19万4423票と減少。近年の自民復調は「反自民票」が複数の野党に分散している結果だということが分かる。

今回の市長選では反自民票が鹿内氏に結集。津島氏のお膝元でもある県都決戦で「公認並み」（陣営幹部）に支援した蝦名氏が敗れた。浮動票の多い青森市では自民党が浸透していない。津島氏は「衆院選は自民党が全面的に信頼を得て勝ったわけではない。強く戒め、自覚しないといけない」と語った。

候補者選考過程での党内の確執も今後の不安要因だ。党市支部は蝦名氏と高橋修一県議、花田明仁元市議会議員の中から蝦名氏擁立を決めたが、合併前の旧浪岡町が拠点の党浪岡支部が一時、高橋氏の推薦を独自に決定。自民系市議が高橋氏を推す勢力と花田氏を推す勢力の真っ二つに分かれる中、推す市議がほとんどいなかった蝦名氏を推薦することが確執に拍車をかけた。